

令和5年11月28日
記者発表

令和5年度和歌山県文化表彰について

令和5年度和歌山県文化表彰の受賞者が決まりましたので、お知らせします。

1 受賞者（50音順・敬称略）

(1) 文化賞（文化の向上発展に特に顕著な業績を示し、和歌山県の誇りに値すると認められる方を表彰）

氏名	年齢	住所	出身地	分野
まつ たに たけ さだ 松 谷 武 判	87	フランス	大阪府	現代美術家

(2) 文化功労賞（文化の向上発展に貢献し、その功労が特に顕著である方を表彰）

氏名	年齢	住所	出身地	分野
まつ やま かおる 松 山 馨	93	和歌山市	和歌山市	歌人

(3) 文化奨励賞（すぐれた文化の創造と普及活動を続け、将来一層の活躍が期待できる方を表彰）

氏名	年齢	住所	出身地	分野
かわ しま 川 島 ケイジ	46	東京都	みなべ町	シンガーソングライター
きのした ゆういち 木 ノ 下 裕 一	38	京都府	和歌山市	補綴家、ドラマトウルク
きしゅう みんな 紀州の民話をオペラに実行委員会	8	和歌山市	—	アマチュア音楽劇団

(年齢は令和6年1月15日現在)

2 表彰式

(1) 日時 令和6年1月15日（月）14時～

(2) 場所 和歌山県庁本館4階 正庁

3 賞

表彰状、^き徽章（メダル）並びに副賞をお贈りします。

4 沿革

昭和39年度より実施、本年度で60回目を迎えます。

5 来年度の候補者の推薦

令和6年4月下旬から6月末まで、候補者の推薦を受け付ける予定です。

（どなたでも推薦することができます。ただし自薦はできません。）

担当課	文化学術課
担当者	胡麻・前田
電話	073-441-2050（内線2060）

令和5年度和歌山県文化賞

まつたに たけさだ
松谷 武判

住 所 フランス・パリ
出身地 大阪府大阪市
生 年 昭和12年

◎ 業績及び経歴

昭和12年大阪市に生まれる。九度山町出身の両親の元に育ち、父の仕事の関係上、昭和22年から小中学生時代の約4年間を、湯浅町、串本町、田辺市で過ごす。その後兵庫県西宮市に転居し、大阪市立工芸高等学校で日本画を学び、昭和32年第8回西宮市展日本画部に初入選。荒尾昌朔氏に師事し、新美術協会展や西宮市展で受賞を重ねる。昭和34年元永定正氏と出会い、同35年第9回具体美術展に出品。昭和38年には、戦後日本美術を高める目的で結成した具体美術協会の会員となり、発売直後のビニール接着剤を用いた有機性と官能性を感じさせる作品で注目を集める。昭和41年フランス政府留学生選抜第1回毎日美術コンクールで大賞を受賞し留学。現在に至るまでパリで制作を行う。昭和42年S. W. ヘイター氏の版画工房「アトリエ17」に入門し、銅版画の技法を習得、同45年モンパルナスの版画工房にてシルクスクリーンの作品を制作。数多くの国際展で受賞する。

昭和50年代からは、紙と鉛筆を前に自身と向き合った結果、東洋人的な墨の黒を彷彿させる、鉛筆の黒と接着剤による柔らかな凹凸を主題とした作風を確立。鉛筆の黒を塗り込めることで時間を作品に埋め込んでいく新たな境地に達した。具体美術協会の「人の真似をするな。誰もやっていない事をやれ。」という教えと東洋人的な感性を土台に五感を大事にする氏の作品は、世界的に高く評価され平成29年第57回ヴェネツィア・ビエンナーレ国際展VIVA ARTE VIVAに選出。令和元年パリ国立近代美術館(ポンピドゥー・センター)での個展には12万人が来場した。

また、私財を投じて国籍年齢を問わず芸術家を支援する基金の設立や、本県立近代美術館の企画展への協力等、後進育成にも惜しみない力を注いでいる。

美は、人間の内側、思想や主義の手前に存在するという信念を貫く氏の作品は、万国から高く評価され、氏の功績はまさに本県が世界に誇るものである。

■ 現 在

・現代美術家

◆ 主な表彰歴等

昭和33年 第5回新美術協会展新人賞
昭和34年 第10回西宮市展日本画部市長賞
昭和41年 フランス政府留学生選抜第1回毎日美術コンクール大賞
昭和44年 第1回国際絵画フェスティバル(カーニュ・シュル・メール、フランス)プリ・ナショナル
昭和44年 第7回オーストリア国際版画展3等賞
昭和44年 第1回バルセロナ国際版画展銅版画賞
昭和48年 第1回世界版画コンクール'73展(サンフランシスコ)エディション部門買上賞
昭和51年 第5回イギリス国際版画ビエンナーレ2等賞
昭和55年 第7回リエカ国際オリジナルローイング展国際審査員賞
平成2年 第1回大阪絵画トリエンナーレ3等賞
平成14年 西宮市民文化賞
平成26年 兵庫県文化賞
平成29年 第57回ヴェネツィア・ビエンナーレ国際展VIVA ARTE VIVE選出

令和5年度和歌山県文化功労賞

まつやま かおる
松山 馨

住 所 和歌山県和歌山市
出 身 地 和歌山県和歌山市
生 年 昭和5年

◎ 業績及び経歴

昭和5年和歌山にて生まれる。昭和23年和歌山県立和歌山高等女学校を卒業後、和歌山県職員として勤務。25歳の時に「和歌山短歌会」を結成。その後、結婚、退職し主婦として家族を支える傍ら、一貫して短歌の創作活動に精励する。

『万葉集』、『古今和歌集』に代表されるように、古くから人々は、五、七、五、七、七の三十一文字からなる短歌に様々な心の模様を託してきた。氏は、昭和30年以来、『花籠』、『春暁』、『城のほとり』、『序破急』、『動線』と自身の作品を歌集として世に出しているが、それらを構成する一首一首が氏の心の内を実直に情愛豊かに詠い上げるものとなっている。若き日の瑞々しい感情、戦時中の記憶、夫・姑への愛情と離別の悲しみ、それらすべてに通底する故郷和歌山への思いなど、歳を経るごとにその歌は円熟味を増し、氏の短歌に対する並々ならぬ情熱を感じさせる。その作風が評価され歌集『動線』は日本歌人クラブ近畿地区優良歌集賞を受賞している。

また、氏は和歌山短歌会の代表として、昭和30年の結成より約70年の長きにわたり会員達の作歌能力の向上に力を注いでいる。同会の会誌『さわらび』（前身『わかやま短歌』）は昭和49年の創刊以来、現在まで、氏の指導のもと約50年間一度も休むことなく年2回の発行が続けられている。

さらには、氏の短歌の普及活動は同会に留まらず、昭和60年から平成30年まで毎日新聞の紀州歌壇選者を務めたほか、和歌山県歌人クラブ会長、同名誉会長、和歌山文化協会文芸部長、和歌山刑務所篤志面接委員、日本歌人クラブ近畿地区ブロック委員等、様々な立場から短歌を愛する同志を増やし育ててきた。

70年以上の長きにわたり情愛を持って短歌に精励し、後進を育成し続ける氏の活躍は、本県における短歌の普及、向上発展に大きく貢献するものであり、その功績は誠に多大である。

■ 現 在

・ 歌人

◆ 主な表彰歴等

平成22年 日本歌人クラブ近畿地区優良歌集賞

令和5年度和歌山県文化奨励賞

かわしま

川島

ケイジ(本名

かわしま

川島

けいじ

敬治)

住 所 東京都千代田区

出身地 和歌山県みなべ町

生 年 昭和52年

◎ 業績及び経歴

昭和52年南部川村（現みなべ町）に生まれる。中学生の頃に独学でギターを学び、和歌山県立南部高等学校を卒業後、3人組ロックバンド「7th」を結成し音楽活動を開始。その後バンド解散を機に単身上京し、ライブ活動を続けていく中、圧倒的な歌唱力と繊細かつダイナミックな歌声、卓越した表現力がカリスマプロデューサー石坂敬一氏の目に留まり、平成28年ユニバーサルミュージックより1stミニアルバム『KEIJI』をリリースし、メジャーデビューを果たす。

精力的な活動は多岐にわたり、「Chage Hall Tour2017」全国10カ所ゲスト出演、フジテレビ「MUSIC FAIR」、テレビ東京「THEカラオケ☆バトル」、日本テレビ「バゲット」、「ものまねグランプリ」などのメディア出演の他、東京芸術劇場、サントリーホール、紀南文化会館など全国でワンマンコンサートを開催。

令和2年には配信シングル『シロヨヒラ』がデイリー総合シングルダウンロードランキング1位を獲得。令和4年には平和へのメッセージを込めた配信シングル『今人（イマジン）』を日本・韓国・台湾など100ヶ所以上の音楽配信サイトから同時リリースするなど、活動の場は国内にとどまらず海外にも広がっている。さらに、令和5年には音楽の聖地と呼ばれるビルボードライブ横浜にてライブを開催し好評を博した。

また、高野山金剛峰寺、富岡製糸場、熊野本宮大社など世界遺産を舞台にした音楽活動に注力。「高野山・熊野を愛する100人の会」のメンバーを務めるほか、みなべ町ふるさと観光大使に就任。同町公認ソング「僕らが生まれた梅の町」を制作し全国で披露するなど、地元和歌山への愛情も深い。

聴く者を包み込む声質と高音の伸びの美しさ、心を揺さぶる表現力は、年々輝きを増しており、今後より一層の活躍が期待される。

■現在

・シンガーソングライター

◆主な表彰歴等

令和3年 WEIBO Account Festival in Tokyo 男性グッドシンガー賞

令和5年度和歌山県文化奨励賞

きのした ゆういち
木ノ下 裕一

住 所 京都府京都市
出身地 和歌山県和歌山市
生 年 昭和60年

◎ 業績及び経歴

昭和60年和歌山市に生まれる。小学3年生の時に初めて上方落語を鑑賞し衝撃を受ける。落語の面白さに目覚め市内の地域寄席や落語会に足繫く通う中で、古典芸能全般に興味を抱き、小学生で落語、中学生で歌舞伎、高校生で文学、大学生で能・狂言を見るという計画を立て実行する。京都造形芸術大学映像・舞台芸術学科に進学し、現代的な舞台芸術の表現や最先端の前衛的な表現を学ぶ中で、歌舞伎の手法や能の表現との共通点を見出し、前衛と古典を繋ぐ思考を深め、古典を使った現代劇の制作を意図するようになる。

平成18年同大学在学中に、自身が補綴・監修を務め古典演目の現代的上演を行う木ノ下歌舞伎を旗揚げする。その主眼は、海外のオペラ等の新演出に比べて必ずしも一般的ではなかった日本の古典演目を誰でも演出できる環境を作る、歌舞伎を現代の歌舞伎として蘇らせる潮流を起こす、という壮大なものである。そのため、氏は演目のテキスト化に際し、作者の生きた初演の時代から現代までの、過去の時代の台本、今は現存しない歌舞伎の型、学術論文、評論、浮世絵、写真等、あらゆる資料を通して当該演目の歴史を徹底的に調べ上げた上で、演出家と熟議を重ね演出を完成させていくという、ドラマトゥルクとしての緻密かつ膨大な努力を重ねることを惜しまない。

その成果は、平成27年に「三人吉三」再演が読売演劇大賞上半期作品賞にノミネートされ、平成28年に「勸進帳」が文化庁芸術祭新人賞を受賞するなど、高い評価を受けており、令和6年にはまつもと市民芸術館の芸術監督団団長への就任も決定している。

日本の古典演目を尊重し、古典と現代の距離を認識した上で、現代に蘇らせる潮流を作るという氏の取組は常に進化を続けており、今後さらなる活躍が期待される。

■ 現 在

- ・補綴家
- ・ドラマトゥルク

◆ 主な表彰歴等

- | | |
|-------|-----------|
| 平成29年 | 文化庁芸術祭新人賞 |
| 平成30年 | 大桑文化奨励賞 |
| 令和2年 | 京都府文化奨励賞 |
| 令和3年 | 京都市芸術新人賞 |
| 令和4年 | 和歌山市文化奨励賞 |

令和5年度和歌山県文化奨励賞

紀州の民話をオペラに実行委員会

創立 平成27年
代表 杉山 みかん (本名 堤 敦子)
所在地 和歌山県和歌山市

◎ 業績及び経歴

平成27年10月1日にふるさと和歌山の民話や史実にもとづく物語をオリジナルの音楽劇として上演するために発足。民話には古からの貴重なメッセージが込められているとの考えのもと、数々のオリジナル作品の制作、上演を行う。

旗揚げ公演の平成28年は「住蛇が池の花嫁～岩出市～」を和歌山県民文化会館小ホールで初演。岩出市教育委員会からの依頼を受け、杉山みかん氏の脚本・演出、森川隆之氏の作曲により、岩出市根来にある住持池の伝説を音楽劇に仕上げた。第2回公演では旧貴志川町（現紀の川市）に伝わる民話を題材に「国主淵物語」を上演。第3回、第4回公演では龍神村（現田辺市）の小森谷溪谷に伝わる民話を取り上げ、護摩檀山の謂れとされる平維盛伝説について、山里の娘お万とのはかない恋の物語「恋小袖の瀧」として和歌山市及び田辺市で上演を行った。令和3年の第5回公演では幕末から明治にかけて和歌山城下に居住した川合小梅が記した日記を題材に、近代日本の草創期を、小梅さんの目を通して親しみやすく上演した。

これらの音楽劇の出演者は幅広く、プロで活躍する声楽家のみならず、尺八奏者、長唄三味線奏者、法螺貝吹奏やパーカッショニストなど、作品の世界観に応じて多様性に富んでおり、また、小学生や少年少女合唱団、和歌山大学生など、舞台上で若年者の演技が光る場面も多い。さらに、上演に際してはメンバー内で話し合いを重ね、点字プログラム、音声ガイド、舞台上での手話通訳等を率先して用意し、誰もが音楽劇を心地よく楽しめる環境づくりについて熱心に取り組んでいる。

ふるさと和歌山に古から伝わる民話をオリジナルの音楽劇に創造し、多様性を重んじ心を込めて観客に届ける活動は、和歌山の文化の向上発展に貢献しており、今後もその活動に大きな期待が寄せられる。

◆主な表彰歴等

【文化表彰各受賞者からの受賞に際するコメント】

《文化賞 松谷 武判 様》

この度は思ってもみなかった和歌山県文化賞をいただき吃驚いたしております。和歌山県在住の頃より絵が好きで今日まで「美」の追求をしております。

美は人間が感じる唯一純粋な感性です。創作する者も鑑賞する者も同じ次元にありお互いに分かち合えます。物質欲、闘争は成り立ちません。音楽、詩、小説然りです。

今、我々に必要な感性です。

ありがとうございます。

《文化功労賞 松山 馨 様》

この度は和歌山県文化功労賞を賜り誠に光栄に存じますとともに、心より御礼申し上げます。私の短歌は幼い時に多忙の母が正月だけ百人一首のカルタ遊びをしてくれた事が基になっていると思います。戦後の多くの苦難をのり越えた日々も^{みそひともじ}三十一文字に支えられ、今も友人達と喜び悲しみを共にして作歌に努力をしております。

今後一層励みたいと思っております。どうぞ何かと御指導の程よろしくお願い申し上げます。

《文化奨励賞 川島 ケイジ 様》

この度は和歌山県文化奨励賞という大変名誉ある賞をいただき誠にありがとうございます。これまで貴重なご支援や助言をいただいた皆様のお蔭で受賞できましたことを心より感謝申し上げます。

生まれ育ててくれた青く澄んだ空、雄大な山々、春に魁けて咲く気高い梅花、そしてお世話になった方々へ恩返しできるよう、歌を通して日本そして世界へ届けてまいります。

この度は、本当にありがとうございました。重ねて御礼申し上げます。

《文化奨励賞 木ノ下 裕一 様》

ふるさとから、(しかもこんなに分不相応な) 賞を頂けるなんて、格別の嬉しさです。18歳で和歌山を出て演劇の世界に飛び込みました。紀州街道、熊野、和歌の浦、城下町、民話や伝説の数々、まるでお隣さんのような身近さで、歴史や古典がすぐそこにある。そんな環境が自分を形作ってくれていることを最近になって、強く感じます。

また、多感な小～高校時代に、多くの素晴らしい師や先生との出会いがありました。いただいた御恩を返していく時が来ているなと思っています。

《文化奨励賞 紀州の民話をオペラに実行委員会 様》

令和5年度和歌山県文化奨励賞の栄誉を賜り恐縮至極に存じます。

弊会は、発足8年目のまだまだ若葉でございます。然し乍ら、会員一同力を合わせ、その土地土地の人々との交流を大切に独自の音楽劇を制作してまいりました。

旗揚げ公演は、岩出市教育委員会よりの委嘱作品 音楽劇「住蛇が池の花嫁」です。作曲は森川隆之先生、脚本は不肖杉山みかんが努めました。

受賞を心の糧に、これからも民話の発掘に勤しみ、古よりのメッセージを音楽と共に伝え続けたいと思います。

令和5年度和歌山県文化表彰受賞者

【文化賞】



松谷 武判 氏

【文化功労賞】



松山 馨 氏

【文化奨励賞】



川島 ケイジ 氏



木ノ下 裕一 氏



紀州の民話をオペラに実行委員会

※下記へご連絡いただければ、写真データをメール送信させていただきます。

担当 文化学術課 胡麻

Email goma_t0002@pref.wakayama.lg.jp